1989年5月21日(日)—7月11日(火) 東京都庭園美術館

●休館日＝第2、第4水曜日(5/24 6/14.28) 開館時間＝午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)
〒108 東京都港区白金台5-21-9 JR山手線、東急目蒲線目黒駅東口徒歩7分
入場料＝一般・大学生500円(400円)、小・中・高校生250円(200円) ( )は10人以上の団体料金

《長い船旅をする2通の封筒》
1963-64年

楽園からのメッセージ

フンデルトワッサー展
HUNDERTWASSER

主催＝財団法人 東京都文化振興会、美術館連絡協議会、読売新聞社
後援＝東京都、オーストリア大使館 協力＝東急グループ、日本航空 協賛＝花王

テレホンサービス＝(03)443-8500

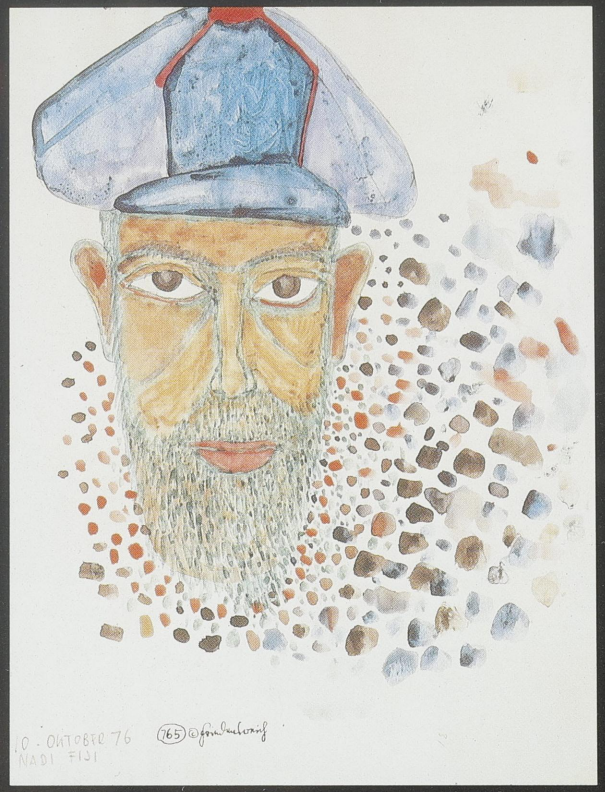
楽園からのメッセージ

フンデルトワッサー展
HUNDERTWASSER

フリーデンスライヒ・フンデルトワッサー（本名フリートリッヒ・ストワッサー）は1928年オーストリアの古都ウィーンで生まれました。幼いころから際立った色彩と形態の才能を認められた彼は、クレーやエゴン・シーレの影響を受け、若くしてアカデミズムから離れて独自の道を歩み始めました。フンデルトワッサーが画壇に登場したのは、第二次世界大戦後、ヨーロッパ美術が華やかな展開期を迎えた1950年代の初めです。前衛芸術家たちが絵画の新たな可能性を求めて様々な試みを繰り広げるなか、彼はトランス・オートマティスムという独自の理論を展開しました。それは、彼が「生と死の無限の連続的リズムの象徴」とする繰り返される渦巻や流線と、強烈なイメージの世界に引き込む、幻惑するような色彩によって表現されており、彼の描く作品は樹木も建物も人間もすべてが同化して混沌とした世界を創造しています。

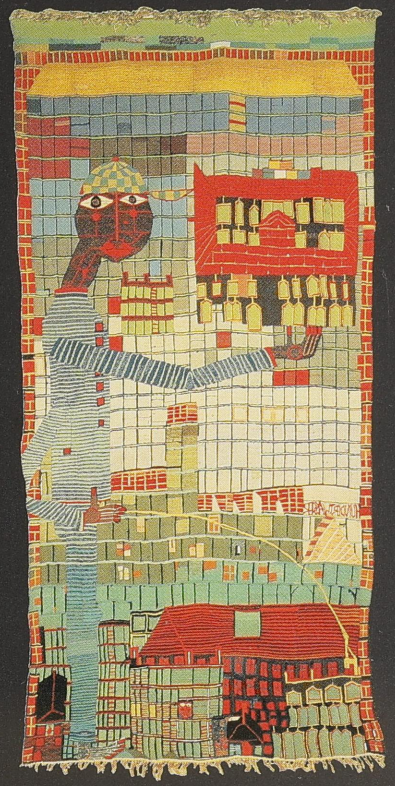
その芸術の根底に一貫して流れているのは反合理主義と自然回帰の理念であり、彼は創作活動の他にも様々な宣言や行為を通し現代社会における自然破壊の危機感を訴えています。1958年の「徽（かび）宣言・建築に対する合理主義に対して」等、数々の講演を行なう一方、「窓に関する権利、樹木に関する義務」「草屋根の利点」などの宣言を通して自然と人間の理想とする共存関係を提唱しています。

本展では、フンデルトワッサーの初期から今日までを網羅する、絵画、版画、タピスリー、建築模型で構成されています。また作品に加えて、種々の宣言とイベントの記録も合わせて展観し、彼の芸術とそれを貫く理念を明らかにしようとするものです。



《自画像》1976年

《庭ののぞき男たち》1981—82年


《摩天楼と小便小僧》1952年

《奇跡の大漁》1950年

《落陽》1964年